

# インボイス賛成の維新

「私はインボイス（適格請求書）制度は賛成です。大賛成なんです。昨年12月6日の衆院財務金融委員会での発言したのは、与党議員ではなく、日本維新の会の足立康中議員です。インボイス制度に反対する多くの人々の声を踏みにじり、弱者切り捨ての徹底的な経済効率化で「財源を生み出す」ことに固執する維新の姿勢が鮮明に表れています。今年10月に導入予定のインボイス制度は、年間売上高1000万円以下の免税事業者が、事実上の増税となる課税事業者となるか、取引から排除

## 財源に固執 与党の悪政をけん引

される可能性が高まる免税事業者のままでいるかを迫るもの。フリーランスや零細企業にとって経済的打撃はもろろんのこと、膨大な事務作業も発生します。エンタメ業界やフリーランス業界から続々と反対声明が上がっており、中止を求める署名に15万5000人が賛同しています。

国会では、日本共産党、立憲民主党、れいわ新選組、社民党の4党が、昨年6月にインボイス制度廃止などを盛り込んだ消費税減税法案を共同で提出しました。

それに対し、維新の藤田文武幹事長は、同月の

インターネットメディア主催の若者向け公開討論で「消費税はそもそも消費者から預かっているお金。それは払わないといけない。非課税事業者(免税事業者)はそれを利益にできるという話だ」と述べ「インボイス制度賛成」を表明。1月に発足したインボイス制度の問題点を検討する超党派の議員連盟にも維新議員の姿はありませんでした。

さらに、12月に兵庫県丹波市議会が賛成多数で可決した「消費税インボイス制度（適格請求書等保存方式）の実施延期を求める意見書」には、公明と維新だけが反対。この問題でも与党の悪政をけん引する立場を賣っています。

田文武幹事長は、同月の